



終わりが先に見えている

始まる前に、終わりが見えてしまう人がある。

それは悲観ではない。
冷静さでもない。

出来事が動き出すより先に、
配置が立ち上がるだけだ。

それは傍観ではない。
関心が薄いわけでもない。

むしろ、よく見えている。

誰が期待し、
誰が無理をし、
どこで均衡が崩れるか。

感情が動く前に、
関係の重心がずれる。

場が盛り上がる。
声が大きくなる。
希望が語られる。

その只中で、
持続しない線が一本、浮かび上がる。

壊れる瞬間ではない。
壊れ方が見える。

怒りではない。
怒りが置かれる位置が見える。

だから熱の中に入りきれない。

参加しているのに、
どこかで静まっている。

それは高さではない。

内側にいながら、
同時に全体を引き受けてしまう位置。

巻き込まれないのではない。
巻き込まれる前に、構造が閉じる。

熱が立ち上がる前に、
終わりが輪郭を持つ。

A dark, empty room with light streaming through sheer curtains. The room is mostly in shadow, with the light from the window creating a bright area on the floor and the curtains. The walls are a light, textured color, and the floor is a dark, smooth material.

それは冷たさではない。



Edition — 存在の芯
別景：終わりが先に見えている

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026